

令和5年度 学校評価報告書

学校名	三田市立上野台中学校
-----	------------

1 学校教育目標

「夢や未来を創造し、確かな学力と豊かな心でたくましく生き抜く生徒の育成」

2 今年度の学校重点目標

- (1)「学力」の向上に向けた授業改善の工夫（充実した授業、質の高い授業）
- (2)「対人関係能力」の育成（人権尊重、生徒指導、開かれた学校）
- (3)職場環境の整備 [生徒に向き合う時間の確保]
(協働して支え合う<<チーム上野台>>、勤務時間の適正化)

3 総合的な自己評価

持続可能な業務であることを重視し、整理統合を進める中で全ての学校行事を実施したが、単に行事内容を縮小するだけでなく、生徒の負担軽減や保護者の納得も得ながら、令和型学校行事が実施できたと考えている。学力向上と部活動のあり方については保護者の要望の中でも特に強いものを感じるので、引き続き地域保護者と共に組織的に推進したい。アンケートでは生徒保護者ともに「自分の意見を適切に言える雰囲気がある」「いじめ・暴力がなく安心できる」「先生は生徒の頑張りを認めている」が高評価だった。学校教育実現のため重要視している項目なので、ありがたく受け止め、更なる向上へチーム上野台として取り組んでいく。

4 総合的な学校関係者評価

職員減の中、前年度目標を上回る成果を感じる。心身ともに成長する時期に個や人格を尊重し互いを理解することの重要性を感じる。生徒が目標を持ち、やりたいことに挑戦し頑張っている姿が見られた。小規模校なので与えられる役割も多いが、皆が主役になれる学校であり、その経験を自信にしてほしい。部活動の地域移行の動きは気になっているが、放課後何かに取り組み達成感を得ることは、不登校対策とも関連すると思うので、上手な着地点を見つけてほしい。

5 評価結果

自己評価				学校関係者評価
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育課程 学習指導	基礎基本の定着と、ひとり一人が「確かな学力」を身に着けるための「分かる授業」「楽しい授業」「伸びる授業」の創造	アンケートでは生徒 100%保護者 93%が「授業が分かりやすい」に肯定的評価だった。今後も教師の授業研修を継続発展させていく。	生徒の自主学習確立について「自主学習タイム」や「頑張りタイム」を有効活用していく。学習スタイルの具体例を明示資料として作成し提示する。	自宅での学習習慣が身につけていない生徒がいる。家庭と連携して学習環境を整えていくべき。
	GIGAスクール構想によるICTを活用した効率的・効果的な学習指導の実践、及びその共有	授業での活用率は上がったが、今は個人のスキルアップにとどまっている状態。	各教科の取り組みを学校全体の教育資源として活用する仕組みを作る。	ICTの有効活用と共に、従来の「読む」「書く」の学習も大切にしてほしい。
生徒指導 いじめ防止	教育相談等の充実を図り、多様性を尊重した共感的生徒理解に基づく生徒指導や特別支援教育の視点を持った支援	生徒指導委員会を中心に組織的に対応できている。道徳教育とも関連付けて取り組んだ。	SC、SSW、特別支援教育担当による校内研修を実施する。特に危険なアプリやその使い方については生徒だけでなく保護者に向けた研修が必要である。	不登校が一番の課題。学年を重ねるごとに人間関係が広がる工夫を望む。「心」の教育が不可欠。
	本校「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ問題に対して迅速かつ組織的な対応	いじめ対策チームの存在を知らない生徒が一定数いる。「心のアンケート」が早期対応につながっている。	いじめ対策チームの周知徹底。生徒指導委員会と普段の情報交換それぞれを両輪として、いじめを見逃さない組織づくりを更に進める。	全職員で全生徒を理解し見守っている。専門職との連携も取れている。
保護者、地域住民等との連携	中学校区のめざす子ども像を共有し、『みんなで育てよう』を活用した魅力ある教育環境づくり	生徒指導、キャリア学習、情報教育、特別支援教育など各担当で校区5校による情報共有がなされた。	小規模校、不登校対策といった地域共通の課題について夏季校区職員合同研修会で取り組み、「みんなで育てる」地域づくりを推進する。	引き続き地域専門機関との連携が大切。異学年交流の取り組みは続けてほしい。
	学校から積極的に情報を発信し連携を深め、地域の教育力を活用した「ふるさと三田」を意識した教育環境づくり	学校だよりや全校集会で三田ゆかりの人物について伝えた。虹プロジェクトが地域に広がった	学校運営協議会を中心に、学校現場の課題を、地域の目標として共有し、組織的に取り組む仕組みを作る。	地域の祭りに生徒会が参加してくれた。多世代の交流に期待。
研修・資質向上	教職員一人ひとりが実践的指導力の向上を図れるように、学習指導の工夫や授業改善を意識した研修体制の充実	道徳人権研修、公開授業、情報教育研修など実施した。生徒指導委員会をOJTとして位置づけ職員の育成の場になっている。	授業力と共感的生徒理解を実践的指導力の柱に据え、講師の招聘も含め、校内研修を充実させていく。一教科一人を弱みにせず、他校の授業実践を定期的に紹介するなど、実践情報の収集に努める。	頭ごなしの指導は逆効果。子どもの考えを理解しつつ指導する必要性を感じる。
	業務改善を推進しつつ、教科指導や生徒指導、人権教育や安全教育等の領域で地域や家庭に信頼される学校づくり	超勤時間が減少している。一人が何役も担っている現状で前年踏襲せざるを得ない場合がある。	定例の行事委員会や校務分掌検討委員会で常時、現状の教育活動を見直す習慣づけを行う。業務縮小と内容充実の両立を模索する。	職員数減にもかかわらず目標をクリアしていることを評価している。